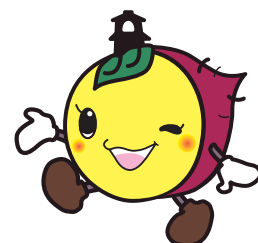


広報 川 越

No.1252

平成23年8月10日

(毎月10日・25日発行)



川越市マスコットキャラクター
「ときも」




葉っぱの模様どうかな？（博物館、関連記事は裏表紙）

そのとき……：2

埼玉県知事選挙の結果：10

全国削ろう会 川越大会：11

 匠が目指すもの：14

●「上下水道局だより」が折り込まれています。

*川越市ホームページ(<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>)でも、広報川越をご覧になれます。

2012年、川越市は
市制施行90周年
を迎えます。

そ の と き

東日本大震災ドキュメント

防災危機管理課 224-5554

平成23年3月11日、午後2時46分ごろ、かつて経験したことのない、激しく長い揺れ。国内観測史上最大のM9.0という巨大地震は、大津波を引き起こし、原子力発電所の事故まで招きました。一万五千人以上の方が亡くなり、十一万戸以上の家屋が全壊した原因のひとつは、津波でした。そして四か月以上が経過した今なお、約五千人が行方不明、九万人以上が不慣れた避難所での生活を余儀なくされています。

川越では震度5弱の揺れを観測した今回の地震。大きな被害はありませんでした。しかし、地震後の交通機関の乱れなどによる帰宅困難者の発生、ガソリン・生鮮食料品などの不足、原発事故に伴う計画停電など、市民生活にさまざまな影響がもたらされました。

帰宅困難者となりながらも子どもを迎えに行こうとした両親、被災地から川越に避難してきた皆さん、震災直後に被災地へ救助活動に向かった消防士……。それぞれが直面した今回の震災。そのとき、何を考え、どう行動したのか。そして明日来るかもしれない地震に備えるために、私たちにできることは何か、考えてみませんか。

陸前高田市の被災状況(3月18日撮影) 写真提供：川越地区消防組合



翌朝4時、「やっと会えた」 帰宅困難者の長い一日

地震発生直後、不通となった電車。帰宅困難者が多数発生。都内に勤める関谷夫妻も帰ることが難しくなりました。気がかりなのは、保育園にいる子ども。行きたくても行けない親、帰りたくても帰れない子ども。共に長い一日の始まりでした。

落ち着いて対応した保育園

地震発生時、昼寝が終わろうとしていた新宿町保育園。とつさに布団をかぶせて子どもたちを守りました。「その後全員を一階に下ろし、本棚などが倒れないようにして教室の中央に園児が固まりました。歌を歌って、地震の恐怖を忘れさせようとしていましたね」と、当時副園長の岡部早苗さん。市役所にいた園長の池田美智子さんが戻ったときには「子どもたちは遊びながらも、保育士の話には静かに耳を傾けていました。冷静に行動できてよかったです」。



『体が対応を覚えていた』池田園長(右) 岡部副園長(左)

身重の体、でも保育園の子どもが心配
都内で仕事をしている関谷周之さん・佐智子さん夫妻。同保育園に智香ちゃんを預けていました。「地震発生後すぐに保育園と夫に連絡したけど、なかなかつながらなくて」と5月に出産を控えていた佐智子さん。歩いて帰ろうとすると周囲に止められました。「自分が妊婦ということを忘れていました。とにかく子どもが心配で」。その後同僚の家族の車で帰ることになり、周之さんに伝えることもできませんでした。そこで無理に動く危険と判断し、会社に残った周之さん。「今思えば、歩いて帰ればよかった」。



「先生がいたから怖くなかった」と智香ちゃん。「本もたくさん読めたしね」と池田園長。

大渋滞の都内。佐智子さんの職場に迎えが

来たのは午後10時ごろでした。そこから飲まず食わずで六時間。ようやく保育園に着いたのは午前4時でした。「ラジオを聞いては選択を間違えた、と何度も思いましたね。でも実際は車がなければ無事に帰れなかった」。

つながりを見つめ直す機会に

保育園では「鍋でご飯を炊いて、おにぎりだけの夕食。でも満腹になって不安な顔がやわらぎましたね」と池田園長。「必ず迎えに来るから大丈夫」と言い聞かせ、智香ちゃんが寝付いたのは日付が変わるころでした。智香ちゃんが寝たあとも、園長と副園長は風の音で玄関を見に行くほど緊張した時間を過ごします。到着するまで「絶対に泣いている」と思っていた佐智子さん。駆け寄り抱きしめた智香ちゃんは、平気な顔で「早く帰ろう」と言ったそうです。その後無事に男の子を出産した佐智子さんは「車の中で『保育園は安心』と信じていました。それは智香に会って確信になりました」。



震災を機に自治会にも積極的に参加するようになったという関谷さん

「最近、園内の親同士や近所とのつながりが強くなったみたい」と池田園長。子育てには多くの助けが必要。震災は、多くの人がそれを改めて認識する機会になったようです。

これからの暮らしをどう描けばいいのか……



左から岡村さん、菅野さん、渡邊参事、藤田さん。震災による避難、原子力発電所事故による避難を繰り返し、原発から離れた川越に避難してきました。6月24日、現在に至るまでの苦難と深い悲しみを、涙と笑顔を交えながら語ってくれました。

3月24日、農業ふれあいセンターに開設された一時避難所は、延べ十一世帯・三十二人を受け入れ、4月30日に閉鎖。川越で避難生活を送った皆さんと、運営に携わった市職員が集まり、「そのとき」を振り返りました。

スケート場にいるかのように

震災当日、事務所で仕事をしていたという岡村幸誠さん（55歳・富岡町）。「事務局がスケート場にあるかのように動き出した。事務員を連れてなんとか外に出ました」。

藤田美也子さん（55歳・大熊町）は、隣町の美容室から帰ろうとしたときに地震が起こりました。「土地勘がなく、どこに逃げれば良いか分からなくて大変でした。たまたま知り合いに会えたので帰れましたが、いつもは三十分かからないのに、家に着いたのは三時間以上経過してからでした」。

薬品会社で勤務中だった菅野和幸さん（30歳・富岡町）は、休憩中に地震が発生。「会社の防災体制に従って電源を落としたりバルブを閉めたりしました」。作業を終えて二回目の地震までに高台に避難。直後に津波が襲ってきて、菅野さんの隣の会社は津波にのまれてしまったそうです。段をなして次々とくる津波。見ていることしかできませんでした。午後5時過ぎ、家に帰った菅野さん。家族の安全を確認し、車に必要な最小限のものを入れ



「日替わりで避難所のボランティアをする体制ができた川越はすごいと思う」と岡村さん

れたことも知りました」。活動をいったん終えて本部に戻ったとき、福島第一原子力発電所で水素爆発が発生。「五十件ほどの家を全て回って、避難できないお年寄りなどを保護し、川内村に向けて避難を始めたのは午後5時過ぎでした」。さらに3月14日には郡山市へ。それでも消防団の活動をした菅野さん。家族のもとに帰ったのは25日でした。「避難所には格差がありました。物資を必要などころに必要なだけ配布するのは難しい」。

マイクロバスを借りて川越へ

3月11日は近くの集会場、12日には田村市へ避難した藤田さん。「すぐに帰れると思っていたので、持ち出したものは毛布ぐらい。田村市では小学校のランチルームに百六人が避難し、ほとんど飲まず食わず。のどの渇きや空腹感より恐怖と寒さでいっぱいでした」。



伊佐沼公園で遊んだあとの笑顔・笑顔・笑顔

たくさんの善意が集まりました

～ 避難者への支援 ～

4月1日、南古谷地区の親子13人が避難所となっている農業ふれあいセンターを訪れました。子どもたちはちょうど春休み。何かできれば、との思いから総勢50人ほどで作ったクッキーを避難してきた皆さんに手渡しました。「長い避難生活で心も体も疲れている。少しでもほっとするようなものを、と考えて作りました」と村上美貴子さん。その後、子どもたちは避難してきた子どもたちと一緒に伊佐沼公園へ。時間がたつにつれ、増えていく笑顔。別れるころには、まるできょうだいのように遊んでいました。

このほかにも、自治会連合会・女性団体連絡協議会・NPO法人・美容組合・商工会議所女性会・食生活改善推進員協議会・市内社会福祉法人・埼玉県医師会・埼玉弁護士会川越支部など多くの団体・個人が、炊き出し・食事提供・相談など、避難した方に対して支援を行いました。ご協力ありがとうございました。



手づくりのクッキーを避難者に手渡す子どもたち

13日に田村市の避難所で合流した岡村さんと藤田さん。川越に住む藤田さんの弟を頼って川越に向けて出発するため、ほかの同行者も募りマイクロバスを借りました。16日の昼過ぎに出発。川越に着いたのは真夜中でした。弟が迎えに来るまでの間、コンビニの駐車場に車を止めていると「店員が店の商品を自腹で購入し、食べ物と飲み物を提供してくれました。その気持ちが、嬉しくて」。

農業ふれあいセンターでの避難生活

3月24日、「農業ふれあいセンター」に市の避難所が開設。「原発から逃れることができなくてほっとした」というのが皆さんの正直な気持ちです。「今までいたところは雲泥の差。本当にありがたかった」と岡村さん。「シャワーを浴びることができて嬉しかった」と藤田さん。岡村さんは「最初から仕切りがあればプライバシーの確保ができてよかった」。



「ボランティアは支える人たち。避難者のことを考えて活動することが必要」と渡邊参事

きるだけ被災した皆さんの気持ちに寄り添うような心がけました。連日手づくりの食事を用意してくれるなど、市民の皆さんのさまざまな支援が大きくなりました」。

避難してきた皆さん同士の交流も生まれました。「意外と近い人が多かったのでもよかったです」と菅野さん。受け入れるには、ある程度の地域性も考慮したほうが良いのかもしれませんが。「他人の子どもも自分の子ども

ような気がする」と菅野さん。一緒に過ごせば、家族になれる。そんな団結力と強さが福島島の皆さんの県民性なのかもしれません。**前に進むために**

奥さんと実家がある北海道に転居するという岡村さん。「何もなければ福島に戻りたい。でも、何年かかるか分からないものを待つことはできない」。菅野さんは家族を川越に残して、二年間石川県の工場へ。「全工場の従業員の再就職先を見つけようと、同じ工業団地の営業担当者が全国を回ってくれました」。二年後、再び選択を迫られます。岡村さんの子どもと藤田さんは川越に残ることに。藤田さんは「近所の人の優しさに感謝しています」。藤田さんが一時帰宅したとき、福島の家は震災前とほとんど同じ姿でした。まるで家族の帰りを待っているかのよう。「でもなんで、家族がバラバラになっちゃうんだろう」。

震災後もまもなく被災地で救援活動などを始めた消防士・保健師・ボランティア。放射線や余震の恐怖と戦いながら、それぞれの活動現場で何を見て、何を感じたのでしょうか。

恩返しをしたかったから



五人の仲間と支援活動を行った高山ユキさん。3月28日から一週間、主に埼玉川越総合地方卸売市

場で買い求めた野菜・粉ミルク・水などの食料を使って、避難所や被災した住宅に住む高齢者への食糧支援を行いました。「テレビで流れる映像を見て、何かできないかと考えていました。そこで得意な料理で手助けしようと思い、参加しました」と高山さん。行き先はいわき市。事故を起こした福島第一原子力発電所からおよそ五十kmしか離れていません。放射性物質の影響を考えると最初は不安でいっぱいでした。それでもボランティアに参加したのは「恩返しをしたかった」からです。

高山さんは三十年前、ベトナムから難民として日本にきました。戦争によって住む国を追われ、やっとたどり着いた日本。着の身着のままでも持つていかなかったそうです。「住む場所を提供してくれたり、日本語を教えてくれたりして、日本で生活できるようにしてくれました。今の生活があるのはそのおかげです」。その後結婚し、子どもが生まれたのを機に川越に引っ越しました。恩を返したいという気持ちは持ち続けていましたが、阪神・淡路大震災の際は子どもが小さかったこともあり断念。今回は会社が計画停電で休みになり、子どもも高校生以上に成長。更に夫の理解もあつて、ボランティアをすることができました。いわき市に着いて活動を始めたものの、始めは受け入れてもらえないこともありました。「間に合ってるから大丈夫と言われました。それでも時間をかけてじっくり話している

日ごろから地域に根付いた活動を

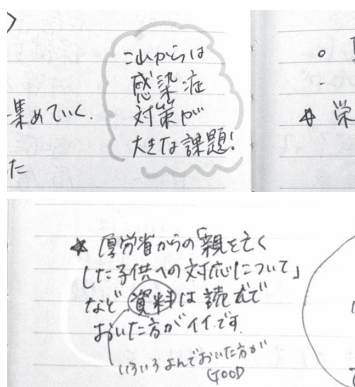


4月7日から石巻市内で活動を始めた有馬理恵主査。平成7年の阪神・淡路大震災、同16年の新潟県

中越地震でも活動経験があります。それでも、現地入りして「今までとは規模が違う」と実感しました。加えてその日の午後11時32分、震度6の余震。慣れない地での停電と津波警報による避難を余儀なくされ、眠れない一夜を過ごしました。被災地での主な活動は戸別訪問。復旧し始めたばかりの被災地を再び



戸別訪問の様子
「聞いてもらえてよかった」の声が活動の励みになる



保健師たちの連絡ノート

「皆さんの本当の心の声を聞いているか心配でした。十分頑張っているのに『みんな大変だから頑張らなきゃ。前を向いていかなきゃ』って、みんな言うんです」と有馬主査。「互いに支え合う」という意識が強い被災地。そこでの活動は、支援にきた人も含めて全員で支え合おうとしていくように感じられたそうです。「地域とのつながりがいかに大切かを思い知らされました。地域に根付いた活動を大切にする『頼れる保健師』でありたいと思います」。



現場で役立つ懐中電灯は今も持ち歩いている

襲った余震に、落胆の表情を見せる人も多かったそうです。一方で、津波で一階部分が水没したのに「家がいい」と残る人も。



3月11日、午後9時13分。消防庁長官から緊急消防援助隊の出動要請。川越中央消防署の高度救助隊（*）・関根康浩隊長は、震災後

川越が被災したときの備えを

すぐに準備を始めました。午後10時に出発したものの、岩手県消防隊と合流し陸前高田市に入るまでに二十時間。「重い消防車は燃費が悪く、給油が不可欠。震災の影響で停電し、給油ポンプが動きません。手で動かしたため給油に時間がかかりました」と関根隊長。陸前高田市に入り、山を越え、川沿いに下り始めると景色が一変。あまりの被害の

と『野菜が欲しい』と言ってくれて。でも余分に置こうとすると『ほかにも待っている人がいるから』と受け取りませんでした」と高山さん。日本人の持つ、他人への思いやりに胸を打たれました。避難所だけでなく、被災した住宅に住む高齢者にも支援しました。前日に弁当が必要な家を確認し、夜に仕込みをして翌日の昼までに配達。多いときは二十個以上作りました。「みんなすぐ喜んでくれて、嬉しかったです」。

自分のできる範囲で何ができるのか考え、将来より今を心配し、何よりも恩返しをしたい気持ちだが、今回のボランティアになりました。高山さんは「一人ひとりができる範囲で



いまだに大きな船が残る気仙沼市内 (7月24日撮影)



感覚を研ぎ澄まして行う救助活動の様子 川越地区消防組合提供

***高度救助隊とは？**
人命の救助に関する専門的かつ高度な教育を受けた隊員五人以上で編成され、特殊な救助器具を装備している。県内で高度救助隊があるのは川越だけ。さらに高度な救助器具を装備した特別高度救助隊がさいたま市にある。どちらも埼玉県特別機動援助隊「埼玉SMART」に属している。県内災害時には最前線で迅速な救助活動を行う。

大きさに言葉を失いました。

13日、午前7時から生存者の捜索を開始。「津波で流されてどこが道路でどこが家だったのかも分からない現場では、なかなか見当がつかず、捜索は難航しました」。埼玉県隊と各県から来ている精鋭たちが五十人がかりで一日中捜索しても、発見できたのは二人の遺体。それでも住民の皆さんから感謝されたそうです。「期待されている以上、頑張らなければ」。その気持ちに困難な作業に立ち向かう原動力になりました。

「起こってしまった災

害は、人の力で乗り越えるしかない。そのためには災害に負けないだけの人数と力を集める必要がある」。被災地を見て全国民をあげての総力戦に



捜索活動の際に役立った「ポーカメ」先端に付いているカメラでガレキの中を見ることができます

なると実感したそうです。また、災害は大規模であればあるほど、個々の備えが重要になってきます。災害を想定した生活を考える必要があると関根隊長は話します。
「川越が被災した場合の備えは重要ですが、それ以上に受け入れ態勢を整えられるかが問題です。さまざまなところから差し伸べられる支援の手を、できるだけ早く、いかに効率よく幅広く受け入れることができるか。そのための体制を作っておく必要があると思います」。

東日本大震災 市の主な対応

3月11日 帰宅困難者用避難所を開設(中央小学校・仙波小学校・高階小学校・富士見中学校・川越工業高校)。
避難者合計六百十八人。

3月11日～5月4日

岩手県・福島県に緊急消防援助隊を派遣。第一次から第七次まで合計百十四人。

3月12日～14日

稲敷市へ給水車一台・職員四人を派遣。

3月14日～4月8日

計画停電対応のため電話機を特設し、二十四時間体制で問い合わせに対応。

3月16日～

市長を本部長とした緊急危機管理対策本部を設置。

3月22日～4月19日

宮城県・福島県に保健師などを派遣。合計四十四人。

3月24日～4月10日

市民の皆さんから避難者への支援物資を受け入れ。宮城県や福島県の避難所にも提供。

3月24日～4月30日

農業ふれあいセンターに被災者の一時避難所開設。延べ十一世帯・三十二人利用。

3月29日

中核市(盛岡市・郡山市・いわき市)へ各百万円の見舞金を送る。

3月31日

中核市(いわき市)へ乾パンなど一万二千食を提供。

5月24日～6月9日

東松島市に保健師などを派遣。合計二十人。

7月1日～27日

東松島市に保健師などを派遣。合計二十人。市内に避難してきた方へ生活支援金の支給・家賃の一部補助などを実施。

8月8日

友好都市・棚倉町へ百万円の見舞金を送る。

被災者に民間賃貸住宅を提供

県では民間賃貸住宅を借り上げて、東日本大震災の避難者を対象に、応急仮設住宅として提供しています。入居希望者の募集は、8月31日(水)までです。

申し込み方法など詳しくは、県住宅課 ☎048・830・5562 にお尋ねください。

防災の知識・技術・行動力を身に付ける

「埼玉県防災学習センター」は、消火体験・暴風雨体験・地震体験などができる施設。自分と大切な人を守るために、災害時の行動を学んでみませんか。入館は無料です。

●利用案内

所在地：鴻巣市袋三〇(北鴻巣駅徒歩二十分)

☎048・549・2313

開館時間：午前9時～午後4時30分

(入館は午後4時まで)

休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)

年末年始など



写真提供：川越地区消防組合

起こりうる「そのとき」のために

阪神・淡路大震災の際、神戸市や芦屋市の被災者は人口の15%から17%でした。川越市の人口の17%は、約五万七千人。一日分の食糧は、十七万一千食必要です。市内の防災備蓄庫などにある非常食は約二十万食。一日分（三食分）の備蓄はあります。

大地震などの災害が発生した場合、市や消防は全力をあげて救助・救援活動を行います。しかし、道路・橋梁の損壊、水道管の破裂、停電などにより活動が制限されることも考えられます。備蓄してある非常食を必要とところに配れなくなることも。だからこそ、一人ひとりの備えが重要です。

そこでお薦めしたいのが、日常生活で消費している食品を備蓄に利用する「ランニングストック」という方法です。普段から食べている食品をある程度多めに確保し、賞味期限の近いものから消費。消費の直前または消費した直後に新しいものを補充していく方法です。非常用食品として特別に用意されたものでなくても、食べ慣れた食品を備蓄に利用す

ることができません。アレルギーがある方や乳幼児など、食べられるものが限られる方に特に有効な方法です。

また、災害時は携帯電話がつながりにくく、情報伝達も難しくなります。家族の役割分担や連絡が取れない場合の集合場所をあらかじめ決めておくことも大切です。

今回の大震災に対して、市ではできるだけ迅速かつ確実な対応に努めました。その活動の中で見えた課題も多くあります。その一つに防災行政無線の問題があります。防災行政無線は、市内二百八十四か所に拡声子局（スピーカー）を設置し、大規模地震などの災害情報を市民の皆さんへ発信するためのものです。しかし、気象条件や周辺環境に影響されやすいため、地域によっては聞き取りにくい場合があります。今回の計画停電の案内では、内容が聞き取れないなどの指摘を多くいただきました。市ではスピーカーを三つのグループに分け、時間差で放送するなどの工夫をし

ています。また、耳の不自由な方や防災行政無線を聞き取りにくい方のために、携帯電話などへのメール配信サービスを実施しています。さらに、防災行政無線を聞き逃したり聞き取れなかったりした方のために、テレホンサービス ☎229-3450 を始めました。

東日本大震災は「自然の猛威を止めることはできない」ということを改めて感じた出来事でした。川越は津波とは無縁。とはいえ巨大地震は起こりうる災害です。そのとき、どう考え、どう行動するのか。大きな災害であればあるほど、一つひとつの対応が生死を分けることにもなります。

被災地の皆さんは、復興に向けて少しずつ、確実に歩み始めました。私たちには、それを助ける息の長い支援が求められています。同時に、自分自身が災害に備えることも大切です。一人ひとりができることを、できる範囲で実践しましょう。被災地のために、そして明日来るかもしれない「そのとき」のために。

埼玉県知事選挙の結果

選挙管理委員会事務局 ☎224-6120

候補者名(敬称略)	得票数	()内は埼玉県全体
原さとる	7,723票	(171,750票)
当 上田きよし	50,085票	(1,191,071票)
たけだのぶひろ	2,308票	(50,252票)

* 川越市の有効投票は60,116票。投票率は22.16%でした。
* 候補者は、届け出順です。

川越運動公園テニスコートがリニューアルしました

スポーツ振興課 ☎224-6094

テニスコート八面の改修工事が完了。リニューアルされた新しいテニスコートで心地よい汗を流しません

か。皆さんのご利用をお待ちしています。

工事中のご協力ありがとうございました。



重度心身障害者医療費支給制度

医療助成課福祉医療担当

☎224-6195

入院時の食事・生活療養標準負担額への助成については、平成23年10月1日の診療分から半額に、また、平成25年4月1日の診療分から廃止になります。

なお、身体障害者手帳四級所持者は、平成24年10月1日の診療分から本人の市民税が非課税の方のみ対象となります。

「市民意見箱」で皆さんの声が市長に直接届きます

広聴課 ☎224-5011

より開かれた市政を目指して、「市民意見箱」を設置しています。設置場所は出張所や公民館など、次の二十六か所です。寄せられたご意見は、市長が直接拝見します。用紙は自由です。意見箱には専用の用紙が備え付けてあります。氏名と住所を明記し、意見箱に入れてください。市政や市民サービスなどに対するご意見を、お待ちしております。

設置場所

本庁舎一階・出張所・南連絡所・メルト(西文化会館)・ジョイフル(南文化会館)・総合保健センター！

オアシス(総合福祉センター)・中央公民館・南公民館・北公民館・高階南公民館・霞ヶ関北公民館・川鶴公民館・大東南公民館・中央図書館・西図書館・クラッセ川越

*このほかに、郵送(〒350-8601川越市役所広聴課)・専用ファクス ☎222-5454・メール・市ホームページの「市政への提案フォーム」でも提出できます。

小規模修理・修繕等の業者登録

契約課 ☎224-5632

市が発注する小規模な修理・修繕等について、契約の見積もり合わせなどに参加を希望する市内業者の登録を受け付けます。

現在登録している方も、9月30日で登録期間が終了するため、申請が必要で

資格：市内に本店・本社があり、市の入札に参加するための業者登録をしていない(個人・法人は問いません)

申請方法：契約課(本庁舎三階)・出張所にある申請書(8月10日(水)から配布)に必要事項を記入して契約課に提出

受付日時：9月1日(木)～20日(火)土・日曜日、祝日を除く、午前9時～正午・午後1時～4時

国民年金基金は国民年金に上乗せする制度です

市民課国民年金担当 ☎224-5764

国民年金基金は、老齢基礎年金だけしか受給できない自営業者などが、ゆとりをもつて老後を暮らせるように設けられた公的な個人年金です。国民年金基金に加入すると、老齢基礎年金に上乗せした年金が受けられます。

掛金は全額社会保険料控除の対象となり、受け取る年金には公的年金等控除が適用されます。

資料の請求・加入の申し込みは、埼玉県国民年金基金 ☎0120-654192にお尋ねください。

市税などの納期のお知らせ

納期限は、8月31日(水)

市県民税・国民健康保険税(第2期)

収税課収税管理担当 ☎224-5686

後期高齢者医療保険料(第2期)

医療助成課後期高齢者医療担当 ☎224-5842

介護保険料(第2期)

介護保険課保険料資格担当 ☎224-5817

元氣を出そう日本、つなげよう日本の技 全国削ろう会 川越大会

9月10日(土)
11日(日)

川越運動公園総合体育館

文化振興課 ☎224-6157

日本の伝統的な木工技術は、世界的に見て高い水準です。この技術を次世代に継承することを目的とした「削ろう会」の全国大会が川越で開催されます。川越は蔵造りのまちのみならず、職人文化の残るまち。そこで繰り広げられる精密で高度な日本の伝統的木工技術。期間中は、全国から200人を超える職人が集まり技を競い合います。めったに見ることのできない匠の技を、間近で体感してみませんか。会場へは上履きを持参してください。



削られた鉋屑はとても薄く、
持つ手が透けて見えてしまうほど

■鉋薄削り競技

鉋屑の薄さ・均一さ・美しさを競う「削ろう会」のメインイベント。鉋屑の薄さはミクロン単位。

日時…11日(日)、午前9時～

■講演会「匠リレー対談」

日時…10日(土)、午後2時～4時 内容・講師…「鋼と和釘」＝鍛冶職人・白鷹幸伯さん(薬師寺の再建に使う和釘を鍛造)▶「徒弟制度と堂宮大工」＝宮大工・小川三夫さん(法隆寺宮大工だった故西岡常一さんの弟子)▶「錦帯橋の架け替え」＝大工・海老崎条次さん(錦帯橋架け替え工事の棟りょう)

●体験イベント(経費はすべて無料)

①の受け付けは1時間前から、②③④は当日直接会場。ほかにも木工に関する実演など多数あり。

①親子で小屋組体験(加工材を使って組み上げ)

日時…10日(土)、午後2時～4時▶11日(日)、午前10時～正午▶11日(日)、午後1時～3時 対象…親子 定員…各先着10組

②槍鉋削り体験(寺社建築などで使う槍形の鉋)

日時…10日(土)、午後1時30分～4時▶11日(日)、午前10時～正午▶11日(日)、午後1時～3時

③削り華アートフラワー体験(鉋屑を再利用)

日時…10日(土)、午後1時30分～4時▶11日(日)、午前10時～正午▶11日(日)、午後1時～3時

④木の葉鋸体験(中世の鋸を体験)

日時…10日(土)、午後1時～4時▶11日(日)、午前10時～正午▶11日(日)、午後1時～3時



槍鉋の実演の様子

関連事業

●収蔵品展「木工職人の道具と技」に関連した実演と体験
市立博物館 ☎222-5399

内容・日時(すべて当日直接会場、要入館料)

◎「建具組合と削ろう会川越の職人の皆さんによる実演・体験」＝8月28日(日)、午前10時～正午▶午後1時～3時

◎「荒井修一さんによる桶作りの実演・矢島清さんによる曲物作りの実演」＝9月3日(土)、午前10時～正午▶午後1時～3時

◎「川越高等技術専門校の生徒の皆さんによる実演・体験」＝9月4日(日)、午前10時～正午▶午後1時～3時

●体験！川越の職人の技 文化振興課 ☎224-6157

NPO 法人川越蔵の会主催。鉋削り体験・大鋸を使った丸太挽きの体験・さまざまな鋸の展示・鍛冶仕事などのビデオ上映。体験は、小学生以上が対象。

日時…9月10日(土)、午前10時～午後4時

会場…鍛冶町広場・仲町観光案内所

～ひとくち情報～ ミニ・インフォメーション ～ひとくち情報～

●川越市都市計画審議会 都市計画課 ☎224-5945

「新河岸駅周辺地区」、「東田町地区」、「氷川町公園」に関する都市計画の変更について。8月23日(火)、午後2時から(受け付け＝午後1時40分から)。川越プリンスホテル。傍聴は、先着5人。当日直接会場。

「まち」が変わる!? 自治基本条例⑤

政策企画課 224-5503

関東学院大学教授・出石稔いしじみねのさんによる「自治基本条例連続講座」の内容をまとめたものです。

条例にはどういう項目が盛り込まれるのでしょうか。今まで制定されてきたものから、おおよそ次の項目に整理されます。

- ①自治の理念、②市民等の権利・責務、③議会の役割・責務、④首長・行政の役割・責務、⑤自治の原則と自治体運営・財政運営の原則、⑥市民の参加と協働の原則、⑦住民自治の仕組みとしての住民投票制度、⑧広域連携・協力、⑨自治基本条例の位置

づけ(最高規範性)、⑩自治基本条例の実効性の確保

ここは誤解しないでほしいのですが、自治基本条例の内容を決めるのは皆さんです。「知らない」と思う項目は盛り込まなければよく、「もつとここは入れなければ」と考えるなら堂々と規定すればいいわけです。そのため、条例の中身はだいたい変わってくると思います。

BOOK NAVI

不思議な丸い棚

中央図書館

222-0559

中央図書館の玄関を入ると正面に見えてくる棚を知っていますか。三百六十度全方位に向けられた、一風変わった円形の棚です。

この棚はヤングアダルトコーナーです。



ヤングアダルトとは、中高生くらいの世代の「若い大人」を表す言葉です。この棚には、純文学や詩集、青春小説やファンタ

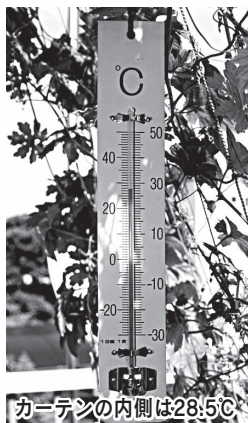
ジー小説などの読み物があります。

夏休みになると、多くの生徒がこの棚を訪れます。長い休みを使って長大な作品を読み切ろうと「ハリーポッター」や「ナルニア物語」、「ゲド戦記」などを借りる人、読みやすい本を探して星新一ほしんいちのショートショートを手取る人、読書感想文のために本を探す人などさまざまです。どの本を読めばよいか迷ったときは、色々な作者の作品を集めた本がお勧めです。「きみが見つける物語」は、あさのあつこ・森絵都もりえと・角田光代たみひろよなどの人気作家が描く十代の物語集で、人気があります。

もちろん中高生以外の方も利用できます。本の背表紙を見ながら丸い棚を一回りすると、なんだか少しだけ昔に戻ったような気持ちになる、不思議な棚でもあります。

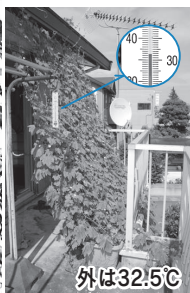
くらしの中の花と緑④

市役所前から博物館へ向かって歩くと、左側に、緑のカーテンのある家が数軒あります。今年度、市が自治会と協働で行っている「緑のカーテンモデル事業」です。カーテンの効果を検証するため、その中の一軒で温度の測定を行いました。



カーテンの内側は28.5℃

当日の天候は晴れ、微風。まずはベランダ。気温は32.5℃でした。次に、緑のカーテンの内側で測定すると、28.5℃。なんと4℃も差がありました。



外は32.5℃

緑のカーテン育ちました

環境政策課

224-5866

今度は室内。ベランダに緑のカーテンがある部屋とない部屋の温度を計りました。部屋の広さ・構造は同じです。緑のカーテンがない部屋は、30.0℃。緑のカーテンのある部屋は、28.5℃。部屋の温度上昇を抑制する効果も実証できました。測定中も、緑の葉を通り抜ける風が涼しく感じられました。

今回、協力していただいた藤崎保雄ふじさき やすおさん(郭町2丁目・64歳)は、「苗の植え付けは、指導を受けながら行ったので簡単でした。毎朝の水やりのほかは特に手間がかからないので、苦勞することはありません。予想以上に早く育って、最近は収穫したゴーヤを食べるのが楽しみです」と話してくれました。快適で美味しい、一石二鳥の緑のカーテンができあがりました。

平成22年度に市内の小中学生から募集した作文をまとめた人権文集「あけぼの」から、作品を紹介します。

かさの中はぼつかぼか

小学四年

わたしが三年生のときのことです。下校中に雨がふっていたのでかさをさして帰りました。とても大つぶの雨だったので、周りの空気がだんだん冷えてきて、とても寒かったです。友達と、

「寒いね。」

「早く家に帰りたい。」

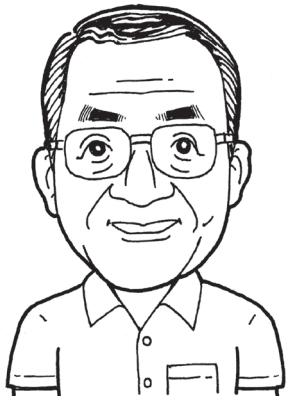
といういろいろ話しているうちに、すぐ友達の家に着きました。友達と別れてから一人で歩いていると、一年生の男の子が走ってきました。でも、一年生の男の子はかさをさしていません。自分はかさをさしているのに、

男の子はかさをさしていなかったの
で、(さむそうだな。かわいそうだな。)と思いました。

しばらくして、男の子が近くまで
来ました。わたしは思い切って、
「だいじょうぶ。ぬれちゃうよ。お
うちまでいっしょに行こう。」
と言いました。すると、男の子はに

っこり笑ってうなずきました。わたしは(やった。言えた。)と心の中で思いました。そのあと、わたしのハンカチでランドセルをふいてあげて、男の子の家までいっしょに行きました。さっきまで寒かったのに、いつのまにかかさの中がとても温かくなっていました。

(つづく)



市長からの手紙

⑭観光のすすめ

3月11日の東日本大震災からすでに4か月以上たちます。川越市の友好都市・福島県棚倉町は、それほどひどい被害はなかったようです。しかし、5月下旬に副町長が川越を訪れ「原発の風評被害で、観光客が全く来なくなってしまった」と話してくれました。棚倉町には、町の第三セクターが運営する「ルネサンス棚倉」という立派なスポーツ・宿泊施設がありますが、3月・4月はすべて予約がキャンセル。夏の予約も全く入らないという状態で困っているそうです。

そこで、震災の影響で春から秋に変更していた町民市民交流ゴルフ大会を時期を早め、7月16・17日に開催。川越市民約70人と一緒に棚倉町へ行き、ゴルフや観光を楽しんできました。私は、ゴルフではなく観光をしてきました。今回見て回った棚倉城址、山本不動尊、八槻都々古別神社等は、いずれも私のお勧め観光スポットです。

千葉県香取市(旧佐原市)は、栃木県栃木市と共に毎年「小江戸サミット」を行っているなど、川越市と縁の深いまちです。こちらは、地盤の液状化による水道管などの被害、歴史的な建物や水路の被害が多く発生しました。伊能忠敬の住居なども、かなり壊れたと聞いています。

現在では香取市のインフラなども復旧し、観光客が戻ってくるのを待っているとのこと。香取市には歴史的な町並みと、その中に舟運に使われていた川の流れがあり、とてもいいところ。勝ち運の神として有名な香取神宮もあります。

川越からできるだけ多くの方が観光に行くことで、震災の被害を受けている棚倉町や香取市を応援することができます。棚倉町では「ルネサンス棚倉」でゴルフ・乗馬・テニスなどが楽しめます。また、歴史的な町並みの散策も楽しいものです。一方、香取市では水郷佐原水生植物園で300種類以上のはすを見ることができ「はす祭り」(8月14日(日)まで)や、市内を流れる小野川沿いで行われる「さわら・町並み・夕涼み」(15日(月))があります。ぜひ、皆さんで出かけてみませんか。

川越市長 川合善明

ひとまち

匠が目指すもの

葉を大きく広げ、太陽の光をたくさん浴びながら、ぐんぐん伸びるサトイモ。秋の収穫に向け、今一番成長する時期を迎えています。藤間で農業を営む田中正宏さん(51歳)は、昨年「農業技術の匠」に選ばれました。田中さんの技で、サトイモの収穫量は増加。品質も向上し、川越産サトイモの商品力アップに大きく貢献しました。

農

業技術の匠とは、優れた農業技術を自ら開発・改良し、生産性を向上させるなど地域の農業活性化に貢献した農業者のことです。農林水産省は、平成20年度からの三年間で四十九人の匠を選定しました。田中さんは、平成22年度に全国

から選ばれた七人の匠の一人です。

選定の理由は、サトイモの収穫量を増やしたこと、その栽培技術を発表し普及に努めたことです。

収

穫量を増やすため、品種選び、種芋を植える間隔、土づくり、たい肥、水やり、輪作サイクルなど

今年は比較のため、子芋(右側)と孫芋(左側)を栽培。成長の早さは一目瞭然。

あらゆる点で工夫しました。その結果、これまでの一・五倍も収穫できるようになりまし

た。栽培する品種は、最も収穫量

が上がると思われる「土垂」という種類。名前は、長く伸びた葉が地面に届く

ほど垂れ下がること由来するとか。食感がねっとりしていて、関東で多く栽培されている品種です。

種芋を植える間隔にも気を配りました。通常は、株の間隔はおおよそ五十五cm、畝の間隔百二十cmのところ、それぞれ四十五cm、百cmと密集させて植えます。また孫芋を使うことが多い種芋は、あえて一回り大きい子頭(子芋)を使います。

この種芋の選択は、夏に大きく成長するサトイモの性質を良く知る田中さんが工夫した点のひとつです。それは、大きく成長させるために大切な夏の水やりと関係があります。この時期、水をまいても暑さですぐに蒸発してしまいます。そこで、成長の早い子頭、しかも葉が大きく広がる土垂を使うことで、土からの水の蒸発を防ぎ、サトイモに水が十分行き渡るようにしました。「二十年間、この方法で栽培しています。うまく育たないのでは、と心配されることもありましたが、味も形も良いものが育っています」。

土づくりでは、野菜の成長に不可欠な窒素・リン酸・カリのほか、土の中の目に見えない養分にも気を使います。何年もかけて独自の「畑の味」を作るのは「それぞれの家庭が工夫をして味を良くしていく、ぬか



選定の知らせを聞いたとき「うれしさで協力してくれた皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいでした」

農

業者の研修会などで、平成7年からこうした技術を公表。栽培技術は近隣自治体へも広がり、この技術を取り入れた農家では、収穫量が伸び、所得向上にも貢献しました。田中さんは、県の地域指導農家として、若い農業者や新たに農業を始める人の育成に力を入れていま

す。現在、田中さんの畑では、会社を中途退職し、農業を志す一人の「弟子」が、直接指導を受けながら、自立を目指しています。

川越産サトイモの商品力底上げに貢献し、増収方法を確立したところは、まさに平成の赤沢仁兵衛(*)のようです。選定されたことに対しては、周りで支えてくれた皆さんのおかげと話す平成の匠。

「田中さんの畑で取れた野菜を食べると元気になれる、と言われるくらい体に良い野菜を作りたい。野菜で健康づくりのお手伝いができたらうれしいです」と話してくれました。

*赤沢仁兵衛…天保8年(1837)～大正9年(1920)。今福村(現在の今福)生まれ。赤沢式と呼ばれるサツマイモの増収方法を確立。どこへでも出掛け、その方法を惜しげもなく教えた。

緑と花あふれるまちに



7月9日、「緑と花まつり in かほく運動公園」が行われました。川合市長、三上市議会議長、地元の小学生により、市の木であるカシを記念植樹。地域の協力で、マリーゴールドなども植えられました。乗馬体験やクイズ大会を楽しむ子どもたちの楽しそうな声が、公園にあふれていました。

手作り浴衣を披露

6月30日、川越工業高校デザイン科の3年生9人が制作した浴衣4着が、お披露目されました。2、3人が一組になり、染色から縫製までを2か月間かけて手作り。「絵柄が合うように染めるのが大変でした」と荒川和稀さん。色の数や柄の細かさで染める回数が増えるため、中には100回以上染色した作品もあるそうです。百万灯夏まつりでは、打ち水に浴衣を着て参加、涼を誘いました。



ひとまち ふおとニュース



行って 会って 体験
気になるイベントや人を紹介

小江戸あるき

ひとまち



「見える化」のシステムを説明する谷島さん

ことに成功しました。その結果、利用者がいない路線の見直しを行い、効率的な運行がで

鉄道やバスなどの地域公共交通の維持や活性化を推進するため、国土交通省関東運輸局が創設した地域公共交通マイスター制度。毎年二千kmを超えるバス路線が廃止されている中、地域の大切な移動手段としてのバス路線を維持する取り組みが評価され、十三人の初代マイスターの一人にイーグルバス(株)社長・谷島賢さん(57歳)が任命されました。取り組みの内容は、運行の「見える化」と「最適化」。一度車庫を出たら把握することが困難だったバスの運行状況は、位置情報を伝えるGPSの取り付けや、センサーでの乗客の乗り降りの把握により、数値として見えるように改善されました。「見える化」されたデータは、パソコンを活用して徹底的に分析。これにより、「最適化」した運行計画を作る

初代「地域公共交通マイスター」誕生

きたほか、鉄道ダイヤに合わせたバスの運行や停留所を回る順番を変更するなどして、利用者から高い評価を得ました。こうした経験から、平成18年には、近隣の路線バス事業を引き継ぎ、経営の立て直しに成功しました。これからの交通政策は、まちづくりの一環として取り組む必要があると話す谷島さん。観光を生かした川越のまちづくりには、郊外に新たな観光スポット開発をすることなどで、面的な広がりを持たせて、経済効果を全体に波及させるのではないかと考えているそうです。今後は、「これまでの経験や知識を生かし、観光客にとって、より便利なバスのネットワークを作るなどして、観光によるまちづくりのお手伝いができればうれしい」と話してくれました。



市内巡回バスの運行経験がマイスター誕生のきっかけ

